

教材研究会(6/10)

単元名「米づくりのさかんな地域」(5年) 小学校学習指導要領解説 社会編 p.77~82

ねらい

- 日本の米づくりが自然条件を生かしていることや、生産に関わる人々の努力や工夫によって支えられていることを理解させる。
- 米づくりに関わる課題を把握して、人々の働きを多角的に考えたり、稲作の発展について考えたりしことを表現する力を身に付けさせる。
- 予想や学習計画を立て、学習問題を追究し、解決する態度を養う。

教材分析  
 研究協議

1 児童が、単元全体の見通しをもち、問題解決することができるような単元構成となっているか。

- 各時間の終末が次時の問いにつながるような単元計画となっている。
- 日本の米づくりと高知県の取組を関連させて理解させるために、問いのつながりをより自然な流れにしたい。

2 単元を貫く問いと各時間の問い(学習活動)は、見方・考え方を働かせることができるものとなっているか。

- 見方・考え方を学習指導案に明確に示すと参観者も分かりやすく、子どもの理解にもつながる。
- 生産者の努力や工夫について深く学ぶための学習活動を、取り入れるとよい。(例:栽培の体験など)



教材研究会での意見を踏まえて修正した単元計画

時	各時間の主な問い ※下線, 赤字は社会的な見方・考え方
12	これからの日本の米づくりは <u>どうなる</u> とよいのだろう。
11	自分たちがよく食べている米は、 <u>どのように</u> 作られ、 <u>どのような工夫</u> がされているのだろう。
10	米は <u>どのように</u> して届けられているのだろう。
9	なぜ『天空の郷』は二度も日本一の米に選ばれたのだろう。(取組の工夫や努力)
8	高知ではどのような米づくりをしているのだろう。(取組の工夫や努力)
7	<u>昔より</u> , 時間をかけずに <u>多くの米</u> がとれるようになったのはなぜだろう。
6	米づくりは <u>どのように</u> 改善されてきたのだろう。
5	安全でおいしい米を作るために、 <u>どんなこと</u> に気を付けているのだろう。
4	米づくりに必要なことは何だろう。(工夫, 努力, 仕組み, 協力 など)
3	米の主な産地は <u>どこ</u> だろう。(産地の分布, 自然条件)
単元を貫く問い(学習問題) 自分たちがよく食べている米は、どのように作られ、どのような工夫がされているのだろう。これからの米づくりはどうかとよいのだろう。	
2	日本の米づくりにはどのような課題があるのだろう。
1	わたしたちが食べている食料は <u>どこ</u> で作られているのだろう。



授業づくりのポイント

- I 問題/課題解決的な学習計画を設計  
単元のゴールを子供の姿(発表・記述)として具体的に描く。
- II 単元を貫く問いと各時間の主な問いとのつながりを重視  
問いに見方・考え方を位置付ける。
- III 指導と評価の一体化  
指導に生かす・記録に残す評価を設定する。

改善・修正した主な点

- 単元の前半(2時間目)  
日本の米づくりの課題を示した資料を提示「消費量の低下, 農家の高齢化・後継者不足」  
↓  
「これからの米づくりはどうかとよいのだろう。」という単元を貫く課題を見いだす。  
↓  
課題を解決するために、学ぶ必要があることを出し合い、学習の見通しを立てる。



より児童の思考の流れに沿った単元計画へと改善

授業研究会(7/8)

本時の問い:「なぜ『天空の郷』は二度も日本一の米に選ばれたのだろう。」  
 本時のねらい:米づくりの取組を調べることを通して、生産や販売方法に着目し、生産者の様々な工夫や努力について考える。

< 流れ >

- ①単元を貫く問いや前時までの学習内容を確認する。
- ②本山町のブランド米『天空の郷』の生産における工夫や努力について諸資料を基に考え、発表する。
- ③『天空の郷』の開発に携わったゲストティーチャーから詳しくお話(背景, 実際の取組など)を聞くことで、理解を深める。
- ④本時の学びを、本山町の取組の工夫や努力に着目して書く。



児童の振り返りから(抜粋)

< 本時の学び >

- 農家の人は、何度も除草したり、品種を改良したりして手間をかけて米を作っている。そして、機械を共同で買ったりと協力して米づくりをしていることが分かった。まだまだ知らないことがあるんだなと思った。
- ブランド米化やおにぎりにして、お米の魅力を(消費者に)知ってもらおう努力もしている。

< 単元末 これからの米づくりについて >

- 米づくりをよくするために、私たちがもっとお米を食べて消費量を増やしていきたい。そうすれば、生産量や農家の利益も増えると思う。
- 農家さんの作業が楽になるように、ドローンを使ってスマート農業化していくといいと思った。

【授業者: 合田 真輝 教諭から】単元を通して、児童とともに学習問題の解決に向けて授業を進めていくことができた。実際の米農家の方にお話を聞くことができたことも工夫や努力についての理解につながった。今後も自分事として考えられるように指導していきたい。

研究協議

< 協議の視点 >

「米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え、表現しているか」

- 児童の発言の中に、本時まで学んだこと(自然条件、品種改良、機械化など)がたくさん含まれており、学習の成果が生かされていた。
- 思考させるための資料を準備していたことで、児童は根拠を基に発表していた。これまでのノートや教室の掲示物も学習を振り返る材料となっていた。
- ゲストティーチャーの方が、現場のお話をいきいきと伝えてくれたことにより、実際に米づくりに携わっている人の工夫や努力を知り、学びが深まったと思う。ゲストティーチャーの活用の在り方(時間・内容)を今後も検討していきたい。



児童のノートの記述から改善の手立てを協議



単元を貫く問いを子供たちと毎時間共有しながら、その問いを解決するために本時があるという意識を常にもって授業をしようと思う。ノート指導のポイントも、改めて考えることができたので、今後を生かしていきたい。

参加者の声～アンケートから～(抜粋)

評価したことを次の授業に生かすためにどうするかということが指導と評価の一体化につながることが分かった。

ゴールを意識して単元を作ることの大切さを改めて感じた。ゴールに向かうまでの子供たちの発言をイメージしながら授業を作っていく。また、担当学年だけでなく他の学年とのつながりを意識した単元づくりをしていきたい。